

英米文化学会会報

第 56 号

平成 15 年 7 月 20 日版



フォーラム 2003「受験英語を考える」

目次

英米文化学会第 21 回大会開催のお知らせ

大会研究発表要旨

第 112 回例会のお知らせ

『英米文化』投稿希望者へのご案内

財務報告

事務局からのお知らせ

訃報 田邊治子理事逝去

英米文化学会第 21 回大会のお知らせ

表記の大会を下記の要領で開催します。

開催月日：平成 15 年 9 月 13 日（土）

場 所：法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナード・タワー26 階スカイ・ホール

時 間：10:00 - 16:40 受付 9:30 より

大会終了後に同タワー内のスタッフ・クラブを借り切り懇親会を予定しております。

会費 3000 円

< 研究発表タイトル >

1. 『ピクチャー・ポスト』の政治学 1930 年代英国のフォトジャーナリズムについて
福西 由実子（東京大学大学院）
2. 作家マーガレット・アトウッドの本質 批評家アトウッドの見解を通して
塚田 英博（城西大学）
3. 米国姉妹大学テネシー州立工科大学との共同授業 インターネットのホームページ（Web）

- を利用した共同科目
4. リベラル・カメレオンの発生過程序説 ジョン・ドライデンを中心に 坂部 俊行(道都大学)
小林 正弘(千葉工業大学)
5. シャーマン・アレクシー『リザベーション・ブルース』 インディアン居住区における黒人
表象 馬場 聡(筑波大学大学院)
6. 第2言語読解における文処理の認知的プロセスとストラテジーに関する実証的研究 特に袋
小路文の再分析処理を中心として 寺内 正典(法政大学)
飯野 厚(東京大学大学院)
7. カントリー歌手ハंक・ウィリアムズの語彙研究 語彙カテゴリーの中における高頻出語彙
田中 健二(摂南大学)

第21回大会発表レジュメ

1. 『ピクチャー・ポスト』の政治学 1930年代イギリスのフォトジャーナリズムについて 福西 由実子

1930年代は「事実(fact)」とリアリズムの時代であり、当時深刻となった不況を背景に、英国内の他者すなわち労働者や下層民の実態を「現実のままに」描き出すドキュメンタリー運動が様々な領域において盛んになった。本発表では、これらのうちフォトジャーナリズムに焦点を当て、その特性と意義について考える。具体的には、フォトジャーナリズムを確立させた『ピクチャー・ポスト』誌(1938年創刊)と、その誌上で展開されたObserver-Observedの手法を論じる。これは、対象を眼差す対象(すなわち自己)を眼差す、という場所に読者を位置付けることで、眼差すという行為により、写真が捉える場面に直接参加している感覚を与え、これが読者の自己分析、自己理解へと発展し、最終的に政治的な効果を生み出すことを狙ったものである。さらに対戦勃発後フォトジャーナリズムがどのような変質をとげたのかも射程に収めたい。

2. 作家マーガレット・アトウッドの本質：批評家アトウッドの見解を通して 塚田 英博

カナダの作家マーガレット・アトウッドは、国内における評価は高く、同国文学賞で最高のガヴァナー・ジェネラル賞を二度受賞している。またドイツを始め各国で翻訳されており、2000年には"The Blind Assassin"でブッカー賞をも獲得している。このようにカナダばかりでなく、世界においても評価が高いということは、その作品には他の作家の作品にはない属性があるに違いない。そこで本発表では作家アトウッドの特色を探る鍵を、批評家アトウッドの特徴を考察することで探し当てようと思う。具体的には歴代のカナダの文学批評家や、アトウッド同様、作家であり文学論も手掛けているホーソーン、エリオット、モーム等の見解と比較検討することで、アトウッドの提唱する文学論の特徴を定義する。このような推理によりアトウッドが定義する、特有の「カナダらしさ」や「想像力」が浮かび上がってくる。そして最終的に批評家アトウッドの見解を規範にして、作家アトウッドの作品を分析しその特色を見極めていく。

3. 米国姉妹大学テネシー州立工科大学との共同授業 インターネットのホームページ(Web)を利用した共同科目 坂部 俊行

本学(道都大学)の海外姉妹校の中で、様々な最先端のIT技術を教育の場にすばやく取り入れている大学の一つとして米国のテネシー州立工科大学が挙げられる。このテネシー州立工科大学と本学とで、昨年度秋学期にWebCT(Course Tools)というシステムを介してインターネットのホームページを利用した共同授業を開始した。これは日米の学生達の異文化理解を第1目的とし、本学の学生にとっては英語によるコミュニケーション能力とITリテラシーの向上が目標となった。学期中、としてテネシー州立工科大学からのテクニカル・アシスタントが本学に滞在し、学生及び担当教職員のサポートをした。日本においてこのようなWebCTやインターネットを利用したコースを、学内や日本国内で実施しているケースは数多くある、というよりも現在ではあたりまえのように多数の大学で行われている。しかし海外の大学との共同授業ということになると、それほどケースが多くはないようである。ホームページの内容はすべて英語で書かれ、当然やり取りも英語で行われた。コミュニケーションは同時(通信)双方向と非同時(通信)双方向の両方が利用された。今科目「国際ビジネス・コミュニケーション」の内容、過程及びその成果を紹介する。

4. リベラル・カメレオンの発生過程序説 ジョン・ドライデンを中心に 小林 正弘

カメレオンと聞いてすぐに思い浮かべるのは、あの伸縮自在な舌を使った独特の捕食行動と、そして体色を自在に変えるかに思われる生態です。このようなカメレオンの比喩的イメージとしては、洋の東西を問わず「無節操、変節漢」のそれが第一のものではないでしょうか。しかしこの事実はイギリスロマン派を研究する者を多少戸惑わせます。ロマン派の詩人たちは多かれ少なかれ、政治的にも宗教的にも「自由」を尊重します。そんな彼らにとってカメレオンはむしろ「自由」のシンボルだったからです。しかしまた何故、それはカメレオンでなければならなかったのでしょうか。このような疑問を解く鍵の一つを 17 世紀イギリスの政治宗教改革史の中に求めることができると考えます。本発表では当時を代表する詩人ジョン・ドライデンを話題の中心にして疑問の考究に努めるつもりです。

5. シャーマン・アレクシー『リザベーション・ブルース』 インディアン居住区における黒人表象 馬場 聡

現代のアメリカを代表するネイティブ・アメリカン作家、シャーマン・アレクシー(Sherman Alexie)の『リザベーション・ブルース(Reservation Blues, 1995)』は、現代のアメリカにおけるインディアン居留区を、現実と虚構を織り交ぜて描いた作品である。本作品では、実在した黒人ブルースマンが居留区を訪れたことがきっかけとなり、ネイティブ・アメリカンの若者たちがロック/ブルース・バンドを組み、全米へと活動を展開していく顛末が描かれている。「ネイティブ・アメリカン」と「アフリカ系アメリカ人」という、共にアメリカ社会から周縁化された人々の関係性、そしてネイティブ・アメリカン作家の作品における黒人表象について論じていく。

6. 第2言語読解における文処理の認知的プロセスとストラテジーに関する実証的研究 特に袋小路文の再分析処理を中心として 寺内 正典 飯野 厚

本研究の主な目的は、第2言語読解のプロセスにおいて、袋小路文などの統語解析が困難とされる英文の文処理の場合に、統語処理や再分析処理は、どのような過程・方略・原則に基づいて遂行されるのかを解明することにある。特に今回の研究発表では、習熟度の異なる日本人EFL学習者を被験者とし、主に袋小路文の統語処理や再分析処理において、次の3要因がどのように関与するのか、またその場合には、どのような原理や規則に基づくのかを分析・考察していく。1. 文処理・文理解のプロセスでは、(特に初期段階においては)どのような方略(例えば、統語原理依存優先か意味依存優先か)が主に採択されるのか。2. 統語処理のプロセスでは、どのような統語処理方略(例えば、最小付加、遅い閉鎖、再解析制約など)が適用されるのか。3. 高得点群の被験者の採択する構文解析方略や再分析方略は、どのような方略(例えば、即時処理か遅延処理か 並列処理か直列処理か 前方再分析・後方再分析・選択的再分析のいずれか)なのか。

7. カントリー歌手ハンク・ウィリアムズの語彙研究 語彙カテゴリーの中における高頻出語彙 田中 健二

ハンク・ウィリアムズ(1923-1953)はカントリー音楽を大きく発展させた歌手である。日本でも‘Jambalaya’‘Your Cheating Heart’などで親しまれている。彼は酒に溺れた日々、失恋に苦しむ日々をおくる中で日常的な言葉を使って多くの作品を残した。今でもハンク・ウィリアムズは単なる作詞家・歌手ではなく詩人であるとも呼ばれる。歌のテーマは淋しさ、失望、喜び、神への敬虔な心など幅広いが、本研究では彼の全作品 130 曲の全歌詞を対象として、各語彙カテゴリーの中で高頻出語彙は何か、それらは詩行の中でどのように使われているのかをコンピュータも使い、網羅的に調べてゆく。例えば 1. warm/cold, 2. calm/angry, 3. happy/sad, 4. helpful/troublesome などのカテゴリーを準備しておき、各カテゴリーに属する語彙を使用頻度順にまとめて詩行における働きを考える。

第 112 回英米文化学会例会のお知らせ

第 112 回英米文化学会例会を下記のとおり開催いたします。研究発表の申し込みは 2 ヶ月前の 9 月 14 日です。発表申込者は、レジメを添付の上、例会担当までお申し込み下さい。

例会開催日：平成 15 年 11 月 15 日(土)午後 3 時～午後 5 時

例会場所：日本大学歯学部

研究発表申し込み締め切り：平成 14 年 9 月 14 日

研究発表申し込み先：例会担当 小林 弘 (042-925-3658 〒359-1145 所沢市山口 775-16
kobayasi-hirosi@ba.wakwak.com)

『英米文化』投稿希望者へのご案内（注意：提出先が変更になっています）

『英米文化』第34号の投稿締め切りは10月31日です。学術担当理事の田邊治子氏のご逝去により、学術担当理事が交代しております。投稿規定は『英米文化』第33号をご覧ください。新入会員で投稿規定が必要な方は事務局までお申し込み下さい。Eメールまたはファックスにてお送り致します。その他投稿に関してのご質問は学術担当の上野和子理事（kazukou@nt.catv.ne.jp、tel:03-3425-4678 Fax:03-3425-4944 〒154 0017 東京都世田谷区世田谷3-22-21）までお寄せ下さい。

事務局からのお知らせ

訃報

学術担当理事としてご活躍いただきました田邊治子氏がさる7月3日逝去されました。フェミニズムに関するご研究や、とりわけ動物の権利擁護の分野で業績を上げられました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

田邊治子先生を悼む

英米文化学会会長 高取清

去る七月三日に突然の訃報に接し、驚きと共に深い悲しみを感じております。ご遺族の皆様のご無念とお悲しみはさぞかしとお察し申し上げ、会員一同心からお悔やみを申し上げます。

田邊治子先生は、東京女子大学をご卒業され、その後中央大学大学院博士課程を修了されました。社会に出られてからは、長らく麻布大学教授としてご活躍され、その間にフルブライト研究員としてコロラド大学で動物に関する倫理についてご研究をなされました。先生は『コンパニオン・アニマル 人と動物のきずなを求めて』や『動物に権利はあるのか』（訳書）などの動物に関する著書や論文をご発表になられるだけでなくフェミニズム関係の論文や、文学研究にも多くの業績を残されました。

また、学問的な業績もさることながら、ご円満な人柄と優しいお心遣い、時にはユーモアを交えたお話し振りで、会員からはお姉さまのように慕われておりました。

先生は、英米文化学会において七年有余の間学術担当理事として、学会の中心となる研究活動の成果を世に問う『英米文化』の編集をご担当なされ、常にその内容の向上にお心を砕いていただいたことに対して会員一同心より感謝申し上げます。さらに、これまで積み上げてこられました豊かな学識と研究実績を踏まえて、若い会員の研究を支え、学会の向上にお尽力なされたことは忘れることができない功績であります。学会にとって大変貴重な会員を失ったことはこの上ない損失でございます。誠に残念なことではございますが、今となっては致し方もないことです。これからは、先生のご功績を胸に刻み、会員一同心を一つにして、学会の発展に尽力することが先生のこれまでのご好意に報いるせめてものご恩返しと思っております。

田邊先生、どうぞ安らかにお休みください。

合掌

メールアドレスをご確認ください

事務局では、お届けいただきましたアドレスを元にして、メール到達可能会員にメールにて、非常勤の口から、今回のように訃報などを流すことがあります。残念ながら当方からのメールが戻ってくる例がございます。今回は、メールアドレスをいただいた方全員に訃報をお送りしております。到着していない場合は、当方での入力ミスなども考えられますので、事務局までご連絡をください。

平成14年度会計報告ならびに平成15年度予算案について

6月15日のフォーラム2003のあとで開催されました臨時総会にて、平成14年度収支会計報告と、平成15年度予算案が承認されました。なお、会計監査は6月6日に、山下信一先生により厳正に行われました。

平成14年度英米文化学会収支会計報告書

自 平成14年4月1日

至 平成15年3月31日 単位：円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,298,409	事務局費	291,631
学会費	1,077,000	学術委員会運営費	580,046
学会誌(32号)掲載料	381,000	広報費	122,832
印税	1,131,056	渉外費	5,000
雑収入	38,204	分科会運営費	100,702
		大会運営費	202,777
		例会運営費	25,819
		理事会運営費	135,813
		翻訳特別プロジェクト費	47,885
		フォーラム費	69,112
		学会基金積立金	1,000,000
		諸雑費	340,214
		次年度繰越金	1,003,838
合計	3,925,669	合計	3,925,669

平成15年度英米文化学会会計予算案

自 平成15年4月1日

至 平成16年3月31日

単位：円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,003,838	事務局費	300,000
学会費	1,000,000	学術委員会運営費	650,000
学会誌(33号)掲載料	390,000	(学会誌発行費を含む)	
印税	1,585,178	広報費	140,000
雑収入	50,000	渉外費	20,000
		分科会運営費	150,000
		大会運営費	200,000
		例会運営費	20,000
		理事会運営費	120,000
		評議員会運営費	40,000
		出版助成費	1,260,000
		翻訳特別プロジェクト費	100,000
		フォーラム費	800,000
		予備費	229,016
合計	4,029,016	合計	4,029,016

学会による出版物の配布について

今までに英米文化学会による以下の出版物が上梓されております。『30周年記念誌 あゆみ』『たたかう性』『アメリカ文学史 上下巻』『シェークスピアの変容力』の5点です。これは在籍する会員全員に1部ずつお渡しすることになっております。新入会員にお渡しするのを忘れたなどの事由にてお手元に渡っていない場合は、今年の秋と来春の例会の会場が日本大学歯学部の手元で予定ですので、会場にお見えになって請求をくださった会員のみ差し上げます。関東地方以外の会員で、書籍がお手元に届いていない場合は別にご請求ください。

研究発表の録音について

次回より、研究発表については、発表者の許諾がある場合は録音をして、当日所用にて参加できなかった会員のみ、発表の録音CDとしてお分けすることが可能となりました。このCDは会員の利用のみとなりますので、非会員への譲渡、貸与はできませんのでご注意ください。CDは送料込みで1000円となります。希望者は事務局まで申し込んでください。

会員の動き

【新入会員】

省略

【住所変更（新住所）】

省略

【平成14年度希望退会者】

省略

英米文化学会会報 第56号

編集/発行：英米文化学会

編集責任者：石山伊佐夫

〒224-0028 横浜市都筑区大圃西3-3-1001

045-592-6570

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

問い合わせ先 英米文化学会事務局 佐藤治夫 03-3219-8160 ファックス 03-5204-8787

E-mail: shakey23@tky.3web.ne.jp

学会ホームページ <http://www.osk.3web.ne.jp/~shakey23/indexj.html>